

令和4年1月24日(月) 下野新聞

宇都宮市河内生涯学習センター

【宇都宮】学校や地域、行政が一体となったまちづくりに貢献したとして、市河内生涯学習センターが、文部科学省の「第74回優良公民館表彰」を受け

「地元への熱い愛が結集」

この表彰は、公民館や社会教育活動を行う公共施設が対象。地域住民の学習活動に大きく貢献する事業などを行う施設を表彰する。今回は同センターを含む全国59施設が選ばれた。表彰式は2月4日、オンラインで実施される。

同センターでは昨年、地元の古



古里中学生徒が作成したパンフレットとガイドブック「かわち」

文科省の優良公民館に 魅力再発見する講座評価

ることが決まった。県内で唯一の選出。地元の魅力を再発見する講座の開催などが評価された。同センターの湯沢義久所長(59)は「河内を愛するみんなの熱い思いなどが結実した」と喜んでい

(亀井勝)

里中の生徒が講師となり、河内地区の魅力について学習した成果を発表する「いきいき河内発見講座」が開かれた。

生徒たちは「自転車でございませば あなたは きつとキレイになる。」「見よう！食べよう！遊ぼう！古里」など五つのテーマに分かれて学習。それぞれのパンフレットを作成し、中学生ならではの視点で地域の魅力を紹介した。

さらに、住民組織の「河内地区まちづくり協議会」は、子どもたちの郷土愛を育もうと、同地区の魅力を紹介するガイドブック「かわち」を作成。地区内の全児童生徒に配布した。ガイドブックを教材にした講座も開催した。

同協議会の永井寛会長(71)は「ガイドブックは私たちの思いが詰まった地元の宝。(表彰を受け)今後もこのガイドブックを活用し、住みよいまちづくりに貢献したい」と話している。